

2020年9・10月 No.357

# ニュースレター



## MISHOP が動き始めます！

依然、感染拡大に歯止めがかからない新型コロナウイルス。そうした中、MISHOP の事業の再開に向けた活動が、少しずつではありますが動き始めました。前回に続き広報部会と事務局が協働で取りまとめましたが、今回は MISHOP の「新たな日常」（ニューノーマル）の取り組みについて報告します。

ひとつは、新しい生活様式を踏まえた事業展開を図るため、コロナ禍での MISHOP のあり方を検討するプロジェクトチーム「新しい生活様式を踏まえた MISHOP のあり方検討チーム」の発足などについての報告。そして二つ目は、子ども教室や LLJ で活動している会員ボランティアさんのインタビューを通して、コロナ禍での外国籍市民の新たな支援の方策について考えます。

## 活動再開方針第 2 段階へ移行

### ～ 新たな活動の展開に向けて ～

コロナ禍の現在、MISHOP は今年 5 月 28 日に策定した「協会活動再開方針」に基づき、協会活動の 3 つの柱「交流」「理解」「支援」のうち、外国籍市民の皆さんの生活に係る「支援」活動を中心に行っています。直接窓口や電話で、MISHOP 活動再開の目途や特別給付金の申請等、様々な行政手続きに関する問合せを始め、専門的な内容のご相談の場合には、関係機関を紹介したり、職員ができる範囲で対応をしています。

あわせて、毎月発行している NEWS LETTER（協会登録外国籍市民向けの会報）などで、様々な情報提供を行い、少しでも安心して生活をしていただけるように支援を続けています。

この間、右記協会活動再開方針にあるとおり、「支援」活動の次なるステップ（第 2 段階）の担い手を会員ボランティアの皆さんへ移行するため、そのタイミングについて検討を重ねてまいりましたが、感染者数が再び増加に転じるなど、移行時期の判断に苦慮しています。

一方で、およそ 7 ヶ月にわたり新型コロナウイルスへの対応を図る中、感染を予防するために必要なことや個々人の行動規範が身につけてきたことも事実です。

また、「非接触型」のツールを多くの方が利用するようになり、オンライン会議などネット上で意思疎通が図れる方策が充実してきたことを受け、協会活動再開のひとつのヒントになっています。

### 活動再開方針 概要 (2020年5月28日策定)

#### 第 1 段階

主に、外国籍市民の生活に係る「支援」活動を協会職員が行う。

#### 第 2 段階

「支援」活動の担い手を、協会職員から会員ボランティアへの移行を検討する。  
**(対象となる活動) 日本語教室、子ども教室**

※ LLJ(会員グループ)活動については、グループ内で再開の検討を行うとともに、リモートツールを使ったレッスンを始めました。

#### 第 3 段階以降

「理解」、「交流」事業の再開検討

こうしたことを踏まえ、MISHOPでは『新しい生活様式を踏まえたMISHOPのあり方検討チーム』を立ち上げ、支援活動の次の段階への移行方法を検討すること、そして、既存の活動に捉われることなく、「新しい生活様式」を踏まえた活動の展開など、新しいMISHOPのあり方を考えていくことにいたしました。

### 『新しい生活様式』（例）

一人ひとりの基本的感染対策

①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いを心掛ける。

日常生活、働き方、交通機関利用時や食事中など、各場面に応じた「新しい生活様式」（手指消毒、咳エチケット、換気、3密の回避など）を実践する。

MISHOPはこれまで30年間、「草の根の国際交流」で地域における多文化共生社会の実現を目指して活動を続けてまいりました。残念ながら、新型コロナウイルスの影響で、人と会うことにも躊躇してしまう状況になり、直接交流する機会が減り、協会活動も縮小しています。そうしたことが、会員の皆さんの協会への思い入れや活動への意欲に少なからず影響しているかも知れません。

このような状況下でも、心を寄せてくださる会員の皆さんのご理解に対し、心から感謝を申し上げますとともに、皆さんと知恵をしばり、新たな「つながり」と、支援が必要な方への「寄り添い方」を見つけたいと思っています。

引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 新しい生活様式を踏まえたMISHOPのあり方検討チーム（概要）

- 1 コロナ禍での新しい生活様式を踏まえ、日本語習得支援活動（日本語教室・子ども教室）の再開を検討します。
- 2 新しい生活様式を踏まえ、非接触型のツールを用いた新たな事業展開について検討します。



### スケジュール（予定）

- 10月 チーム発足  
(各活動グループに分かれて検討)
- 11月 提案書作成  
日本語支援活動(日本語教室、子ども教室)については、案がまとまり次第、「第2段階」へ移行  
通信環境整備、資機材の調達
- 1月 非接触型ツールを用いて検証開始

## LLJは今

### リモートレッスンを始めた会員も

新型コロナウイルスの流行で会員のボランティア活動も大きな影響を受けています。日本語個人レッスン(LLJ)は2月26日以降、「密」を避けるために活動を自粛しています。LLJの現在について、世話役の一人、沼田淳子さんに聞きました。

\*\*\* \*\*

MISHOPのラウンジスペースを使って、原則、週1回、1対1の対面でレッスンするLLJは、自粛前、約150組が活動していました。2月26日以降は直接対面型のレッスンのほか、学習を希望する外国籍市民と日本人ボランティアとのマッチング、定例ミーティングも自粛しています。

6月19日にはLLJの世話役と事務局が意見交換会を開催。その後、17人の運営係の意見をまとめて、それまでの活動自粛の継続を決めました。一方で、電話やメールでの近況報告や、スマートフォンやパソコンを使ったメールアプリ「Line」の無料ビデオ通話や、インターネット電話サービス「Skype」、ミーティングアプリ「ZOOM」など、リモートレッスンの検討も始めました。7月と8月にはZOOM体験会を兼ねて運営係の意見交換会と日本人ボランティア向けリモート交流会を開きました。



8月に行ったアンケートでは、日本人ボランティア25人がすでにリモートレッスンを始めていることが分かりました。

沼田さんは「現状では、従来の直接対面型の活動の再開は遠い先になりそうです。学習者と日本人ボランティアでよく話し合っていて、学習者の希望があればリモートレッスンを検討していただければと思います。こういう時だからこそ、つながりを大切にしたい。皆で知恵を出し合って、できることから一步一步進めていきます」と話していました。



## 「語学サポート」活動再開

MISHOP では三鷹市教育委員会からの依頼に基づいて、三鷹市立の小中学校に外国から転入してきた小中学生に対して日本語の習得を支援してきた小中学生に対して日本語の習得を支援する「語学サポート」に、ボランティアを派遣しており、現在4人のボランティアが活動しています。

「語学サポート」が始まったのは2000年。外国にルーツを持つ転入生の大半が全く日本語を話せず、日本の学校の仕組みについても分からない状態で入学してきます。ボランティアは彼らが学校生活に早くなじめるように必要な言語を教えます。挨拶を始め「ごめんなさい」「やめて」「ありがとう」「トイレへ行きたい」「お腹が痛い」などのサバイバル言語、「いい・だめ」「ある・ない」「いる・いない」などの生活対応言語、文房具や校内の施設の名称、ひらがな、カタカナ、数字などです。

ボランティアは児童・生徒それぞれの担任教諭と相談して、国語や道徳の時間などに級友とは別室で個人指導する「取り出し授業」を一日1、2時間行います。三鷹市では昨年度までは一人の児童・生徒に計20時間実施し、習得状況に応じて40時間まで延長してきましたが、今年度からは不十分な児童・生徒に対しては、最大80時間までサポートできることになりました。



今年はコロナ禍のために3月2日から小中学校が休校となり、語学サポートも中断していましたが、6月22日に学校が再開されたのに伴い、語学サポートも徐々に再開されました。今後、外国にルーツを持つ小中学生の転入がさらに増えれば、MISHOP としても体制の強化が必要かも知れません。

- \* 現在協会では、外国籍市民の皆さんの生活に係る相談を中心に事務局職員が対応しています。
- \* 協会施設の開館時間(窓口業務) 月曜日から土曜日(祝祭日を除く) 午前10時~午後5時

公益財団法人 三鷹国際交流協会

<https://www.mishop.jp/>